

CAF 施行例は検出感度以下になる時間が前 2 者に比し 1.5 倍であった。しかし投与後 4 時間の時点においての血中濃度に差は認めなかった。また透析は ADM 血中濃度にほとんど影響を与えないことが判明した。5-FU 正常腎機能患者の半量投与であるが、透析日、非透析日施行例に関わらず DIV 終了後 1 時間で血中より消失。それは正常腎機能患者も同様であった。【副作用】軽度の脱毛のみ。【抗腫瘍効果】3 クール終了後、肝転移 61% 鎖骨上リンパ節転移 50% 縮小。結語 本症例に対して今回の CAF レジメンは比較的安全に施行可能かつ有効性があることが確認された。

#### 4) 進行再発乳癌に対するタキソテールの使用経験

川原聖佳子・松木 淳  
横山 直行・岡田 貴幸  
青野 高志・武藤 一朗 (新潟県立中央病院)  
長谷川正樹・小山 高宣 (外科)

1997 年 12 月から 2000 年 7 月までに当科で経験した前治療を有する進行再発乳癌症例 15 例 (37~70 歳, 平均 52.9 歳) に対して, タキソテール (ドセタキセル) 60mg/m<sup>2</sup> を単独で 3~4 週間毎に 1 回点滴静注し, その効果を検討した。副作用のため治療を中止し判定不能であった 1 人を除く 14 例のうち, CR は得られなかったが, PR 6 例, NC 3 例, PD 5 例であり奏効率は 42.9% であった。再発部位別では, 軟部組織 (乳房 100%, 皮膚 100%, 局所・領域リンパ節 50%, 遠隔リンパ節 100%, 縦隔肺門腫瘍 40%), 肺 (42.9%) での奏効率がよく, 以下骨 (25%), 肝臓 (25%) で脳転移には効果は認められなかった。副作用としては Grade 3 以上の白血球減少, 好中球減少を 93.3%, 発熱を 60.0%, 口内炎を 46.7% に認めたがいずれも対症療法により改善した。脱毛は全員に認められ, そのうち全脱毛は 26.7% であった。タキソテールは進行再発乳癌治療において, 特に second line の治療として重要な薬剤の 1 つであると考えられるが, 重篤な副作用も認められ, 少量投与や他剤との併用などさらに検討する必要があると思われる。今後も症例を増やして検討する予定である。

#### 5) 進行・再発乳癌に対するタキソテールの使用経験

小川 洋・藍澤喜久雄  
大谷 哲也・片柳 憲雄  
山本 睦生・齋藤 英樹 (新潟市民病院)  
藍澤 修 (外科)

【目的】タキソテール (DTX) は, 進行・再発乳癌に対する化学療法において最も有効な薬剤として期待されているが, 当院においても 1998 年 4 月より DTX による治療を施行している。DTX の抗腫瘍効果, 副作用について retrospective に検討したので報告する。

【対象】1998 年 4 月より 2000 年 8 月まで DTX による化学療法を受けた 15 例 (進行 5 例・再発 8 例・術後補助療法 2 例) 【方法】DTX の投与方法は 60mg/m<sup>2</sup> 90 分点滴を 3 週おき, 原則として入院の上投与。副作用などにより 2 回目以降投与量を増減させた症例は認めず。

【結果】15 例の平均年齢は 53.3 歳 (44-71) で全例女性。投与回数中央値は 6 回 (3-15)。CAF などの前治療歴のある症例は 13 例で, それらに耐性を示したのは 10 例 (76%) であった。全例ホルモン療法を併用。転移部位は肝・骨が最も多く 8 例で, 3 臓器以上の転移巣を有した症例は 9 例であった。副作用は, 嘔気・嘔吐が 11 例 (73%), 食思不振が 4 例 (27%), 脱毛が 15 例 (100%), 好中球減少は G1-2 が 7 例 (47%) で G3-4 が 1 例 (7%)。6 例に G-CSF を投与し改善を認めた。抗腫瘍効果判定は 13 例に可能で, CR 2 例 (15%), PR 1 例 (7%), NC 5 例 (38%), PD 5 例 (38%)。奏効率は 23% であった。【考察】CR, PR の 3 例はいずれも CAF 8 クール以上の前治療歴がある症例で, 2 例が進行乳癌, 1 例が再発例であった。転移部位による抗腫瘍効果の差は認めなかった。【結語】DTX は前治療歴のある再発乳癌のみならず, 高度進行乳癌の治療としても有効性が期待でき, 安全に化学療法を施行できると思われる。

#### 6) 進行再発乳癌に対する Weekly Paclitaxel の使用経験

岡部 聡寛・佐野 宗明  
田中 乙雄・梨本 篤  
土屋 嘉昭・藪崎 裕  
瀧井 康公・諸田 哲也  
出口 義雄・須田 和敬 (新潟がんセンター)  
佐々木壽英 (新潟病院外科)

近年, 乳癌の化学療法として Paclitaxel (PTX) が注目されており, とくに Anthracycline (ADM) や